



発行
 千葉県海匝農業事務所
 改良普及課
 海匝地域農林業振興協議会
 千葉県旭市ニの1997-1
 電話 0479-62-0334
 FAX 0479-62-4482

旭市農業発展の新たな拠点に!

～道の駅「^{きらり}季楽里あさひ」がオープン～



県内一の農業生産額を誇る旭市に、平成27年10月17日(土)、東総地域では最初の道の駅「^{きらり}季楽里あさひ」がオープンしました。

季楽里という名称には、旭の野菜、肉、魚、果物、花、米など様々な特産品を「訪れた人が季節を問わず楽しむことができる里となるように」という願いが込められています。

道の駅内には、地元産を中心とした農畜産物、水産物、加工品等の直売施設、地元食材を提供するレストランやテナントなどの施設があり、旭市の様々な魅力をとっぷりと堪能することができます。

当施設のオープンによって、旭市農業の様々な情報の発信強化、地産地消や六次産業化を含めた農畜産物加工活動などの活性化が期待されています。

農業事務所では、生産や販売活動の支援や指導はもとより、市内の生産者間や生産者と消費者の情報交換と連携を積極的におすすめ、旭市農業のますますの発展につながるよう、関係機関、団体等とも協力しながら、支援を続けていきます。

旭市の話題

○旭の花と緑のPRと消費拡大の取り組み

旭市は、多種多様な切り花、鉢物、鉢植木等が作られ、100名余りの生産者がいる県内でも有数の花き産地です。その中で「旭市花卉生産者協議会(愛称FGA)」が平成22年に設立され、消費者に「花ノ街あさひ」をPRし、産地の知名度や生産者の意識向上と所得安定を目標に活動しています。

①花育活動 市内幼稚園児、保育園児合計500余名が、会員の指導のもと、花壇やプランターへ植え込み体験を行いました。この活動をきっかけに地元小学校へも花育の活動が広がりました。



保育園での花育活動

②オフィス緑化の推進「旭市を花と緑

でいっぱいしよう」を合言葉に、市内の銀行、JA、郵便局、カーディーラー、公共施設など50か所以上で切り花・鉢物の展示を行いました。地元新聞、寄贈先のHPなどでも紹介されました。昨年オープンした道の駅「季楽里あさひ」に花壇も作製しました。

③産地のPR活動 東京都内の園芸店で約2週間に渡り、「旭の花直売フェア」を行い、産地のPRと小売店との情報交流を図りました。

今後市内の花き生産者の連携強化と花と緑の消費拡大活動が期待されます。

銚子市の話題

○天敵農薬を活用したハダニ防除

銚子市苜組合では、近年ハダニに対する殺ダニ剤の感受性低下によって春先のハダニ発生が問題となっていました。そこで過去に導入を試みながらも、定着しなかった天敵農薬の導入を再び試みました。

まず講習会を開催し、天敵農薬をうまく活用するためのポイントを学びました。結論としては「天敵への農薬影響日数の理解」、「天敵導入前のハダニ発生密度を0にする」という2つが重要なポイントになります。

この2ポイントを徹底した上で天敵を放飼したところ、年内はハダニの発生が少し確認されましたが、年明けになるとハダニはほとんど確認されなくなり、その状態のまま出荷が終了になる5月末を迎えることができました。

一方でハダニ同様、

春先に問題になる害虫のアザミウマに使える農薬が制限され、春先にアザミウマが多く発生したなど新たな課題も生じました。今後はアザミウマに対する天敵農薬の導入も含め、どのように対処していくかを検討していきます。



天敵による捕食の様子
写真提供: アリスライフサイエンス株式会社

匝瑳市の話題

○稲WCSの取組が始まりました

近年、米価下落や飼料価格の高騰を受け、千葉県内では飼料米や稲WCSの栽培面積が増加しています。今年度、匝瑳市の椿海、春海、豊和地区においても、稲WCSの栽培が開始されました。農業事務所では稲WCSの需給調整と良品生産を図るため、匝瑳市と連携して支援を行ない、生産・流通体制の整備を行ないました。その結果、7名の生産者のほ場約7haで「ちば28号」、「夢あおば」、「リーフスター」が稲WCSとして作付けされ、5戸の畜産農家で利用されています。

稲作農家、畜産農家の双方共、専用収穫機(細断型ローラー)を所有していません。そのため、今年度はデモ機を用いて収穫を行いました。来年度も稲WCSに取り組み意向があり、栽培面積はさらに増加する予定です。



借用した専用収穫機による収穫作業

稲WCSの取組を継続していくためには、専用収穫機の導入が不可欠ですので、補助事業の活用による導入等を支援し、耕畜連携を推進していきます。

技術情報

○飼料用米知事特認品種

「アキヒカリ」と

「初星」の栽培のポイント

1. 品種特性について

「アキヒカリ」は「ふさおとめ」と収穫期がほぼ同じ早生品種です。収量を確保するためには基肥を多めに施用し茎数の確保が重要です。

「初星」は「ふさこがね」と収穫期がほぼ同じ中生品種で、施肥量も同程度の品種です。これらを念頭において、施肥量を決定しましょう。(表参照)

2. 施肥量について

アキヒカリの基肥はチッソ量で10kgです。一発肥料等の利用で基肥が不足する場合は、堆肥の利用や硫酸追肥でチッソを補充しましょう。

初星は施肥量が「ふさこがね」とほぼ同等なので、ふさこがね専用一発肥料の利用が十分可能です。

また、穂肥の施用量とその時期は主食用米と考え方が異なります。飼料用米は増収のために、主食用米よりも穂肥を早めに施用します。穂肥は最高分げつ期(茎の数が一

表 飼料用米の施肥量

	チッソ量 (kg/10a)	
	基肥	穂肥
アキヒカリ	10	3
初 星	7	3

※砂壤土の場合の施肥量

番多い時期)の葉色が濃い場合は出穂30〜20日前、葉色が淡い場合は50日〜30日前に施用します。また、堆肥を散布したほ場



では、りん酸・加里が補給されているので、単肥(硫酸など)だけの施用で十分です。

3. 栽植密度について

「アキヒカリ」と「初星」は、穂数を増やして収量を確保する「穂数型」の品種です。このため、疎植にはせずに坪55〜60株で、1株当たり植え付け本数3〜5本で田植えをしましょう。

制度情報

○飼料用米を主とした米の生産調整

主食用米の消費量の減少や、過剰作付による、在庫量の増加が、米価下落の要因となっています。

飼料用米等、新規需要米に取り組むことにより、収入を確保し、主食用米の需給改善を図りましょう。

【飼料用米のメリット】

◇ 水はけの悪い湿田でも作れます

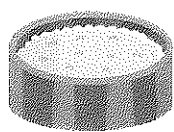
◇ 既存の機械や施設をそのまま使えます

◇ 国や県などの支援策が受けられ、安定した収入が確保できます

◇ 配合飼料工場や畜産農家など、大きな需要があります

○海匝管内の飼料用米等の取組状況

平成27年産の、海匝管内の状況は、飼料用米588.1ha(26年産は281.7ha)、WCS用稲60.2ha(26年産は22.9ha)の見込です。



○飼料用米に取り組んだ場合の収入試算

平成27年の例では、2ha経営規模で飼料用米に0.8ha取り組んだ場合に比べて183,300円収入額が増える試算となります。

また、飼料用米に専用品種で取り組み、地域の10a当たり基準収量より60kg増収した場合、376,100円収入額が増える試算となります。

○飼料用米多収性専用品種について

飼料用米多収性専用品種で飼料用米に取り組むことで、国から12,000円/10aの交付があります。

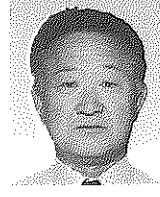
平成26年5月から主食用品種の「初星」「アキヒカリ」も知事特認として、飼料用米多収性専用品種として認められました。種子注文については、農協・千葉県米穀集荷商業協同組合傘下の集荷業者にお問い合わせください。

また、(一社)日本草地畜産種子協会が扱う「夢あおば」などの14品種の飼料用イネ種子は11月末まで予約販売を受け付けていますが、1月から事前予約外の販売を開始します。詳細は各市農業再生協議会にお問い合わせください。

指導農業者・農業士紹介

本年度新たに県知事から認証された方々です

指導農業者のみなさん26名



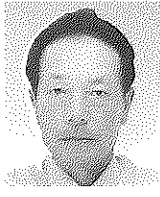
石毛泰男さん
(旭市)

中玉・ミニトマトに品目を絞り、雇用を活用し周年出荷できる経営体系の確立に取り組んでいます。



衣鳩真理子さん
(旭市)

高い飼養管理技術と赤玉生産で付加価値を付けた販売により、地域の養鶏経営を牽引してきました。



掛巢和之さん
(旭市)

水稲、コカブ、ブルーベリーの複合経営で、緑肥利用・減農薬栽培で環境に配慮した栽培を行っています。



嶋田明範さん
(旭市)

水稲、施設・露地野菜の複合経営で、ズッキーニの導入・定着に尽力してきました。



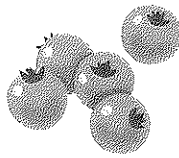
土屋秀之さん
(旭市)

雇用を活用したミニトマトの大規模経営を展開し、若手生産者の技術指導会の企画・指導も積極的に行っています。



長谷川 功さん
(旭市)

ミニトマトの周年栽培を確立する一方、新規品目のアイスパラントの生産に取り組んでいます。



農業士のみなさん7名



石毛敏之さん
(旭市)

露地野菜経営で、主に生協向けの出荷を行っており、消費者交流に力を入れています。



石毛泰洋さん
(旭市)

中玉・ミニトマトの周年栽培で、研究会を設立する等、技術向上に積極的に取り組んでいます。



伊藤慎吾さん
(旭市)

雇用を活用しミニトマトの周年出荷体制を整えるなど経営改善に意欲的です。



根本直喜さん
(旭市)

ホウレンソウ、小ネギの水耕周年栽培に取り組み、特にホウレン

ソウの高付加価値販売を実現しています。



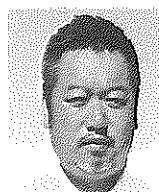
加瀬浩之さん
(銚子市)

半促成メロン、抑制トマトを主にした経営で、高い商品化率を実現しています。



間淵義博さん
(銚子市)

春キャベツ中心の経営で、キャベツの業務加工用契約栽培に積極的に取り組んでいます。



佐瀬洋樹さん
(匝瑳市)

水稲、施設・露地野菜の複合経営で、野菜の契約出荷に積極的に取り組んでいます。

